

深小PTAだより

通学路看板設置のご報告と新春ふれあい広場のお礼

深小PTA会長 久野陽子

地域の皆様には、平素よりPTA活動へのご理解とご支援を頂きまして、誠にありがとうございました。

昨年十一月のおたよりでお願いいたしました、通学路を中心とした危険箇所周知のための看板設置ですが、深小学校PTA環境部により無事終了しました。ことをご報告いたします。お陰様で子ども達も毎日安心して登下校ができております。



また、一月の新春ふれあい広場では、とんどの材料の提供から組み立て、片付けにいたるまで保護者の方々はもとより、地域の皆様のご協力のおかげで無事に終えることができました。バザー品もお米や新鮮な野菜など、たくさんご提供いただきありがとうございます。収益は子ども達の教育活動・PTA活動に有効に活用させていただきます。

皆様のご理解とご協力に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。▲▲

TBG協会だより

第十二回三原市ターゲット・ハードゴルフ大会



第十二回三原市T.B.G.例会が二月五日(日)、深町城山コースにて行われました。成績は次の通りです。

- 一位 吉川 道一
- 二位 谷岡 義昭
- 三位 天木 雅之

※選手の敬称略

(T.B.G.事務局天木雅之 63-2290)

出前講座

城山サロン代表 高崎 修

毎月第二水曜日開催の、ふれあいきいきサロンを二月八日に行いました。当日は、出前講座をお願いしていたので、歩学会会員にも協力を求め、二十名という例月の二倍の参加者を確保しました。

当日の題目は健康講座で、地域包括支援センター「どりいむ」から二名の講師が来て下さいました。

まず、血圧測定を受けた後で、保健師の方から、口と舌を鍛える「食トレ体操」を教わりました。口の字に二画を足して新しい字を作ること頭をひねった後、口や舌や口のまわりを色々に動かして食事や発声・飲み込み等により運動とブラッシング・入れ歯の手入れ等を学びました。



続いて、看護師の方から「きよしのズンドコ体操」を習いました。歌に合わせて手足を動かして、動作を間違えながらも楽しい体操でした。

こうして、予定の一時間はすぐに過ぎてしまいました。当日習った二つの体操は、サロンの月例会や日常の生活の中でも繰り返し行なって、今後の健康維持につなげて行きたいと思えます。▲▲

ピッコロだより (多機能型就労支援事業所)

マリーゴールド・ロベリア・花苗は元気に育っています



三月の声を聞くと「別れ」「出会い」が頭に浮かびます。ハウスの中も冬の花とは決別し、春に向けてどんどん動いていきます。確実に春がやって来ます。

現在、苗はマリーゴールド・ロベリア・アゲラタム・デージーなどです。三月の下旬から四月に向かつて大きく成長するでしょう。ポカポカ陽気になったから、何んとなく、体を動かしたくなり、野菜を育てて、食卓にも花を咲かせてみませんか? 野菜苗もそろそろ種蒔きの準備中です。沢山の苗が登場します。楽しみにお待ち下さい。▲▲

深町子どもを守る会

子どもをみんなで守りましょう



深小の子どものみは、午後四時頃下校します。※日によって、異なることがあります。○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。○あいさつ、声をかけましょう。

近所トラブルQ&A



Q 自宅の敷地と隣の家の敷地の境界があいまいになっていませんか? どうすればいいですか?

「境界」は、公法上の境界を意味する場合と、私法上の境界を意味する場合があります。前者は筆界(ひっかい)と呼ばれることもあります。

公法上の境界は、登記上の土地の区分であり、不動産登記法で定められた手続きをとらず、好き勝手に決めることはできません。公法上の境界の正確な位置が分からなくなっている場合は、法務局に筆界特定申請をするか、裁判所に境界確定の訴えを提起することが必要です。これに対し、私法上の境界は、所有者の範囲を区分するもので、所有権が合意すれば、自由な位置を決めることができます。私法上の境界は、通常は公法上の境界と一致させますが、私法上の境界を公法上の境界と異なる位置に設定することも可能です。

私法上の境界があいまいになっている場合に、話し合いで解決することが困難なときは、裁判所の民事調停や民間団体が行うあっせん、仲裁などの手続きを利用する方法もあります。それでも解決しないときは、所有権の範囲を確認する訴えを提起し、裁判で争うこととなります。関係者の話し合いにより、新たに私法上の境界を定めることについて合意した場合は、その証拠として、全員で「境界確認書」などの書面を作成します。この書面には、通常、土地家屋調査士や測量士といった専門家に作成してもらった測量図を添付しておきます。また、合意の内容に基づいて、現地に境界標を設置します。なお、無用なトラブルを避けるため、土地の測量や境界標の設置は、関係者全員の立会いの下で行うべきです。

短歌・俳句・詩

中組 仲峠講 竹内ひろみつ

寒くとも木の芽は吹きて鳥の声

何かなまめく風も匂いて

鼻汁が出るも生き居る証とて

そう言う年にわれもなりたり



命延びると妻と語りぬ

命延びると妻と語りぬ

自転車安全利用五原則を守りましょう

- ① 自転車は車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを行
- ④ 安全ルールを守る
 - ・夜間はライトを点灯
 - ・飲酒運転、二人乗り、並進の禁止
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用



※資料提供 三原警察署中之町警察官駐在所 ▲▲

Q 隣の家の木の枝や根が、自分の敷地に入ってきています。切り取っても構いませんか?

敷地に入ってきているのが木の枝か、木の根かによって、対応が異なります。伸びてきた隣の家の枝については、隣の家の人の所有物であることから、勝手に切り取ることは許されません。この場合は、隣の家の人に切り取ってもらうことができます。

なお、自宅の敷地に落ちてきた果実も、隣家の方の所有物であることに変わりはないので、勝手に処分することは許されません。以上に対し、敷地の境界線を越えて伸びてきた木の根は、自分で切り取ることもできます。



※日本司法支援センター 法テラス 法律問題Q&Aシリーズ (二〇一〇年版) より抜粋

中学校での三年間

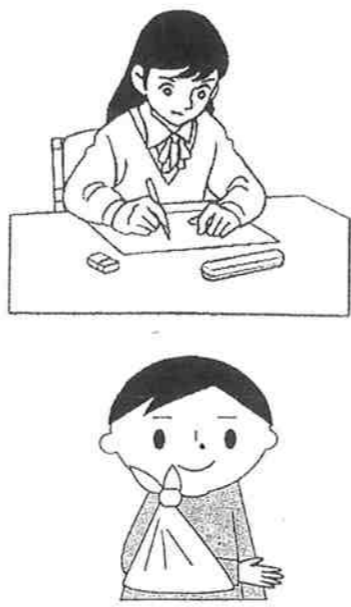
射場 瑞月

中学校で過ごした三年間は、とても貴重なものでした。多くの仲間ができて、初めての部活動に本気で取り組む、さまざまなことを学ぶことができました。

その中でも、人との関わり方など、多くのことを学ぶことができたと思います。人との関わりの中で、敬語を使いこなすことはとても大変でした。部活での先輩と後輩という関係を崩してはいけないので、慣れない敬語を使っていく必要がありました。そのおかげで、尊敬する先輩とも、緊張せず、話せるようになりました。同時に、目上の人への敬語の使い方を学びました。

また、何か行事をする時、ただ楽しいだけではだめだということに、気付かされました。三年生の体育大会では私はチームリーダーを務めました。競技を決める時に、一番人気のある種目をジャンケンで決めることになりました。その時、「決まったことは一切文句をいわない」と言っておけばよかったのに、楽しい方が先立って言うことができず、その結果、なかなかメンバーを決めることができず、チームの雰囲気悪くしてしまいました。このようなことから楽しいことだけではだめであり、しっかりと計画を立てメリハリをつけることが、成功につながることを学びました。

中学校で学んだことは、これからの高校生活で活かしていくべきであり、私にとってとても貴重なものであったと思います。勉強、部活を両立させて行けたのも、これらの体験があつたものだから、中学校生活での悔いはありません。これからも「頑張る」とも一生懸命取り組む悔いを残さぬよう頑張りたいと思います。



短かった中学校生活

竹野 遼一

あつというまの中学校生活でした。特に三年生になってからの時間がとても早く感じました。三年生はたくさんさんの思い出に残る行事がありました。どれも心に残る大切な思い出となっています。改めて中学校生活を思い返すと楽しいことばかりではありませんでした。ガラスを割って先生に怒られたり、不注意でケガをしたりでした。

一年生の入学したての頃、雨上りの路面でチャリでこけて前歯がけて唇を切りました。次はその四ヶ月後くらいに八月の十五日の盆踊りの時、誤ってガラスで手の動脈を切りました。ちょうどその時に青年団の人達がいて助かりました。青年団の人達には感謝しています。おそらくあの場に青年団の人達がいなければこの作文は書いていないでしょう。また、体育祭の時は脱水症状で倒れ病院へ運ばれました。これは他のケガとはちがひ、すぐ良くなりました。この時から僕は水分補給をマメにするようになりました。そして最後は骨折です。しかも県大会前になってしまいました。これはフライをとうとうとして後ろに飛んでしまった手をついて折れました。とても悔しかったです。

中学校生活はこのようにケガばかりしていたけれど、僕にとってはとても楽しい三年間でした。クラスメイトにも恵まれて何をしても楽しかったです。中学校生活で学んできたことはこれからの生活に活かしていきたいと思っています。

卒業するにあたって三年生、百六十一人と別れるのはとても辛いです。

卒業に向けて

前田 美佳

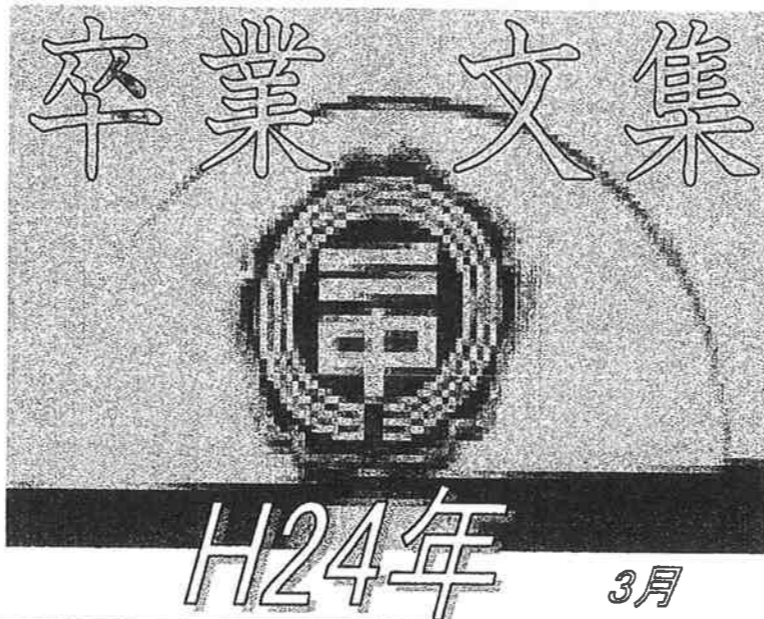
「書くのを止めて下さい。」先生の声とチャイムの音で中学校生活最後のテストが終わりました。今回の出来はまあまあです。如水館の入試があつたこともあり、あまり勉強に身が入りませんでした。思っていたよりも大きな手ごたえがありました。

最後のテストでは、今までのテストとは違った充実感、達成感、安心感、その他たくさんの感情を味わうことができました。今まで考えてもいませんでしたがテストが終わったと同時に卒業まであと少ししかないということも実感します。

テスト返しの日、初めに返ってきたのは数字です。続いて理科、英語と、三日間で行った教科の点数が返ってきました。そのたびに私は浮いたり沈んだり。それだけで疲れてしまいます。あの時はやはり、本当に問題も読んでおけばよかったと何度も心の底で思いました。最後のテストなのに後悔ばかりです。

中学校生活の中で、後悔したことはたくさんありました。勉強のこと、クラブのこと、友達との関係、学校生活が残り一か月を切った今でも、後悔していることはたくさんあります。

卒業までのわずかな間、これからは後悔することをなくし最後にはみんなが笑って卒業することができるよう楽しい時間を過ごしていこうと思います。



三年間を振り返って

斎藤 千有希

僕はこの中学三年間で様々な事を体験しました。一年生の初めの頃は、周りのものが新鮮でした。小学校は少ない全校生徒だったので、多人数で行う体育祭はすごかったです。

二年生では修学旅行が心に残っています。初めて行った東京の班別自主行動は忘れられない思い出です。国立科学博物館や第五福竜丸展示館を回りました。また、ライオンキングのミュージカルを観たこと、東京デイズニードランドでみんなと楽しんだことは、最高の三日間になりました。

三年生になって僕は、進路のことを真剣に考え始めました。一年生の時はどこかの高校へは入れるだろうとか考えていたけど、三年生になってからは自分の入りたい高校へ向けて努力しました。

毎日どのくらい勉強するかを決め、身なりもきちっとして、面接の練習にもはげめました。その甲斐あつてか、自分の志望校に合格することができました。

しかし高校入学はゴールではなく、新たな生活の始まりなので、これから先どのように入学後の道を歩いていくのかを考えていきたいです。また高校で何をやるのかとか具体的な事は決まっていなくても、自分が少しでも興味を持つて、やりたいと思つたことにはほとんど挑戦していきたいです。

卒業について

田中 聖也

僕は中学校生活三年間を通してたくさんさんの思い出ができました。中学一年生の時、初めて、バドミントンの県総体で3位に入賞しました。そのときは本当にうれしかったです。それから、定期テストでも高い点がとれてきました。新しい友達もたくさん増えました。しかし、一年生になったらテストの点が悪くなって問題児にもなっていました。ただ多くの友達を作ることができました。特に人生で一番の思い出は、「修学旅行」です。旅行中に何回も「田中君、田中君」と呼ばれました。小学生の時は、名前を呼ばれないことがたくさんありました。友達と楽しく過ごすことができ、本当にいい思い出になりました。もう一度行きたいです。

中学三年生になると、受験に向け、勉強しました。なかなかすぐに結果が出ず中間試験と期末試験の時は点が低くとれませんでした。小テストだったら高い点がとれたので、自分自身にやわい反省しました。高校受験では自分のすべてを出しました。同じクラスの高木君も「どうなんだろ、だいたいどうかな」と言っていました。その翌日、合格発表の日でした。面接は緊張して全くできなかったの自信がなかったけれど結果は合格で、とてもうれしかったです。家族のみんな、バドミントンのコーチ、バドミントンのかわりのある人から「よくがんばったね、おめでとう。」と言ってもらいすこびつくりしました。あと少しで卒業の日が近づいてきます。これからはみんなに会えないから、すごく悲しい。修学旅行でいっしょの仲間もいなくなる。本当にすごく悲しい。みんなの笑顔もみれない。話ができない。いっしょにあそべない。悲しすぎる。だから盛大な卒業式にしたいと思う。



三年間の思い

多田 翔貴

三年しかない中学校生活も、もう終わろうとしている。思い起こせば楽しかったことと嬉しかったこと、辛かったことなどたくさんを思い出します。

その中でも僕は、部活動ががんばった。先輩が引退した日から僕はサッカー部の部長という大役を務めることになった。嬉しいという気持ちと同時に不安な気持ちもあつた。なぜならどうやって部員をまとめるのか、どんなことをすればいいかわからなかったから。とりあえず自分が行動を示すようにした。それでもなかなかまとまらなかった。しかし、こしずつだままとっていった。たとえば最初は試合中も誰も声を出さなかったのに、声が出せるようになった。すると勝てなかったチームにも勝てるようになった。そして最後の大会では一度も勝てなかったチームを相手にPK戦で倒すことができた。僕は言葉にできないほど嬉しかった。涙も出そうになった。あの試合は一生忘れることはないと思う。

それから、生徒会にも入ることになった。引退したあとは生徒会活動が忙しかった。夏休みは毎日学校に行つた。文化祭の前日は九時まで家に帰れなかった。でも体育祭や文化祭を生徒会のみんなで作っていくことが楽しかった。また達成感を感じることができた。僕は部長と生徒会をして責任感がつき自覚を持つて生活することができるようになったと思う。卒業までの残りすくない毎日を悔いのないようにしていきたい。